

授業改善力 授業を見直して改善をしよう

1 授業を見直そう
授業力の向上を図るために、授業実践を振り返って改善していくことが大切である。

(1) 授業改善の流れをとらえよう
授業改善をするためには、児童生徒の変容と指導との関連性を考察し、指導の成果と課題を明らかにしなくてはならない。そして、有効な指導方法を次に生かし、より良い授業としていくことが授業改善である。

【授業改善の流れ】

授業実践	変容をとらえる	指導との関連性を考える	より良い授業にする
学習前 学習中 学習後 の実態 指導の 記録 活動の 記録の 記録 等	観点別目標の達成度 発言内容 ノート、作品、レポート、 実技、資料の活用状況 新たな課題への取組状況 自己評価、相互評価 関心、意欲、態度 アンケート結果の比較	効果があった指導は何か。 効果が上がらなかった指導は 何か。 教材・教具は有効であったか。 指導過程は適切であったか。 指導形態とのかかわりはどう か。	効果のあった指 導を他の場面に 応用する。 これまでとは違 う指導を考える。 指導形態、指導過 程、教材・教具等 の工夫をする。

【単元末における指導法の改善 例(算数)】

授業実践	変容をとらえる	関連性を考える	より良い授業にする
・書き込み をした指 導案 ・学習感想 ・ノートの 記述 ・評価結果	具体的評価規準に 対する達成度は、 それぞれ - で あった。 既習事項を想起で きる割合が増えた。 図と式の関連付け が不十分だ。 ノートに考えを書 けていない。	習熟度別学習が、 「知識・理解」の 目標達成に効果的 であった。 図と式を関連付け る場面を多くする 必要があるのでは ないか。 自力解決の時のア ドバイスが十分で はなかったのでは ないか。	図表の書き方や使い方を しっかり教えます。 普段から図と式を関連付 ける指導を繰り返し取り 入れていきます。 自力解決場面でもペア学習 を取り入れ、形成的評価で 小ステップ授業をします。

授 業 力 チェック表 (例)

項 目	番 号	評 価 項 目	評 価			
授 業 企 画 力	授 業 構 想 教 材 研 究	1 学習指導要領の目標や内容等を理解している。	A	B	C	D
		2 子どもや学校の実態に即した授業構想となっている。				
		3 習得、活用、探究等を意識して、指導計画を作成している。				
		4 系統性や目標の分析を指導計画に生かしている。				
		5 自校の重点課題を指導計画に位置付けている。				
		6 評価規準及び具体的評価規準(B基準)の作成ができる。				
		7 学習活動、評価、重点課題など総合的な関連を図った指導計画になっている。				
		8 目標達成のための手立てを明確にした指導案が書ける。				
		9 教科書から指導内容を読み取り、授業の組立が考えられる。				
		10 教材化の意識をもって事象を見たり、情報を収集したりしている。				
		11 ねらいや実態を踏まえて、素材を教材化している。				
		12 地域との連携の視点で、教材を見たり開発したりしている。				
授 業 展 開 力	授 業 環 境 授 業 構 成 授 業 ス キ ル	13 自分自身の話し方を客観的にとらえ、見直している。				
		14 話しやすい雰囲気や環境づくりを心がけている。				
		15 学習効果や学習意欲を高める教室掲示を工夫している。				
		16 個に応じた指導法や手立てを工夫している。				
		17 教えることと考えさせることをはっきりさせて学習指導をしている。				
		18 習得、活用を図る学習過程(授業の3つの場)を工夫している。				
		19 学習場面に応じた発問を考え、使い分けしている。				
		20 作業指示を含んだ発問をしている。				
		21 分かりやすい説明を工夫している。				
		22 構造的で効果的な板書をしている。				
		23 基本的な学習ルールをつくり、定着させている。				
		24 指名を工夫して効果的な授業をしている。				
実 態 把 握 力	学 習 前 学 習 中 学 習 後	25 個々の学習意欲や興味関心を把握している。				
		26 これまでの学習状況を把握している。				
		27 具体的評価規準を基に達成状況を把握している。				
		28 児童生徒の反応や変容に気付き、フィードバックしている。				
		29 観点ごとに達成状況を把握している。				
		30 単元全体を通した児童生徒の変容を明らかにしている。				
授 業 改 善 力	授 業 分 析 一 評 価 体 制 化 の と	31 指導の効果を他の教師や児童生徒等の評価から客観的にとらえている。				
		32 児童生徒の変容と指導の効果を関連付けて考察し、授業改善に生かしている。				
		33 形成的評価を生かして指導と評価の一体化を図っている。				
		34 授業力の4つの力すべてについて振り返り、授業改善に努めている。				

(A:大いにはまる ←————→ D:改善すべき)

図 3

5 研究のまとめ

(1) 成果

授業力の全体像が明らかになり、具体的に、どのようなことができる力が求められているのか、そのために、何をすればよいのかをガイドブックの内容として示すことができた。

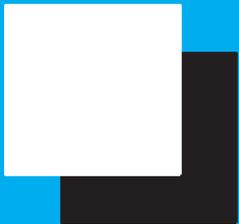
「授業企画力」「授業展開力」「実態把握力」「授業改善力」の4つの力はそれぞれ独立したものではなく、相互に関連しながら授業力として発揮されるものであるが、特に「授業改善力」は授業力全体を見通す力として、重要であることが明らかになった。

図3の「授業力チェック表」を作成したことにより、授業力向上への取組の方向性を示すことができた。

確かな学力を育てるために授業力をどのようにして高めればよいか、4つの力の働きとして考えることにより、ガイドブックの作成にあたり観点を絞って分析することができたため、授業力の具体的な内容が明らかになってきた。

(2) 課題

今後、各学校での本ガイドブックの活用の状況を把握するとともに、さらに活用が図られるように、広報を充実する必要がある。



授業づくり ガイドブック

■ 授業力アップ ■

<はじめに>

平成20年度に、研究主任層を対象とした「校内研究ガイドブック」を作成した。これは、校内研修推進の中心となる教員層の力量の向上を図り、各学校で、全教員が「授業力」向上の意義や必要性を理解し、資質能力のレベルアップへの意欲をもてるような、実効性のある校内研究が実施されることを期待したものである。

平成21年度は、より多くの教員を対象として「授業力」の向上をねらう「授業づくりガイドブック」を作成することとした。

校内研修で組織的に取り組むだけでなく、個々の教員が、自らの「授業力」を振り返り、日々、研修を重ねる一助となるようなガイドブックを目指した。

本書では、「授業力」を右図にある4つの力としてとらえた。そして、これら4つの力について、何をどのようにすればよいのか、具体的に分かりやすく示すように努めた。本書を参考にして、「授業力」の4つの力を総合的に向上させ、授業実践を通して児童生徒の確かな学力の保障ができるように努めていただきたい。

さらに、「校内研究ガイドブック」と「授業づくりガイドブック」を併用することにより、豊かな教育実践が展開されることを期待するものである。



主な参考文献等

- 北俊夫『社会科の思考を鍛える新テスト』（明治図書 2004）
北尾倫彦編『学びを引き出す学習評価』（図書文化 2006）
千々布敏弥編著『教師のコミュニケーション力を高めるコーチング』（明治図書 2008）
市川伸一『「教えて考えさせる授業」を創る』（図書文化 2009）
学校授業力向上研究会編著『若い教師のための授業づくりのポイント』（学陽書房 2009）
国立教育政策研究所『評価規準の作成，評価方法の工夫改善のための参考資料』（平成14年2月）
文部科学省『補習授業校教師のためのワンポイントアドバイス集』（平成14年度）
東京都教育庁『授業改善ハンドブック』（平成16年6月）
岐阜県教育委員会『評価の手引き』（平成16年6月）
北九州市小学校算数科特定課題調査研究推進委員会『確かな学力を育てる算数科の授業創造』（平成17年12月）
東京都教職員研修センター『平成17年度学力向上を図るための指導に関する研究』（平成17年度）
京都市総合教育センター・カリキュラム開発センター『授業力向上にむけて大切にしたい視点』（平成18年3月）
北九州市立教育センター『教師のしおり』（平成19年1月）
神奈川県教育委員会『学習評価ハンドブック』（平成19年4月）
中央教育審議会『幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）』（平成20年1月17日）
長崎県教育センター『「教えて考えさせる授業」公開授業研修会報告』（平成21年2月）
千葉県総合教育センター『新しい学力観に立つ評価法に関する研究』（平成8年3月）

I 授業企画力 P2～

☆ 確かな学力を育てる授業を企画しよう

- 1 育てる学力を明確にして授業構想を練ろう p2
 - (1) 学力を保障する年間指導計画をつくろう
 - (2) 習得・活用・探究の視点を重視しよう
- 2 単元の指導計画を考えよう p3
 - (1) 学習内容の系統性を分析しよう
 - (2) 単元の目標を分析しよう
 - (3) 評価規準・基準を設定しよう
 - (4) 単元の指導計画を考えよう
- 3 指導案を書こう p7
 - (1) 本時の展開を考えよう
 - (2) 日常の授業で指導案を活用しよう
- 4 授業に生きる教材研究をしよう p9
 - (1) 教科書を見直そう
 - (2) 教材をつくってみよう

II 授業展開力 P11～

☆ 分かる・できる授業をしよう

- 1 授業のための雰囲気づくりをしよう p11
 - (1) 児童生徒の立場に立った話し方を心がけよう
 - (2) 話しやすい雰囲気や環境をつくろう
 - (3) 教室掲示を整えよう
- 2 授業展開を工夫しよう p12
 - (1) 個に応じた授業を工夫しよう
 - (2) 基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用を図る学習を工夫しよう
- 3 授業スキルを高めよう p15
 - (1) 発問の働きを考えよう
 - (2) 作業指示を入れて発問をしよう
 - (3) 分かりやすい板書を工夫しよう
 - (4) 学習の足跡が分かるノートにしよう
 - (5) 授業を活性化させる指名を工夫しよう

III 実態把握力 P18～

☆ 子どもたちの姿を正しく理解しよう

- 1 実態把握の見直しをもと p18
- 2 学習前に実態を把握しよう p18
- 3 学習中の実態を把握しよう p20
 - (1) 具体的評価規準(B基準)を基に評価しよう
 - (2) 評価結果を児童生徒にフィードバックしよう
 - (3) 評価結果を記録しよう
- 4 学習後に実態を把握しよう p21
 - (1) 各観点をバランス良く把握しよう
 - (2) 複数の評価方法を組み合わせて把握しよう

IV 授業改善力 P22～

☆ 授業を見直して改善をしよう

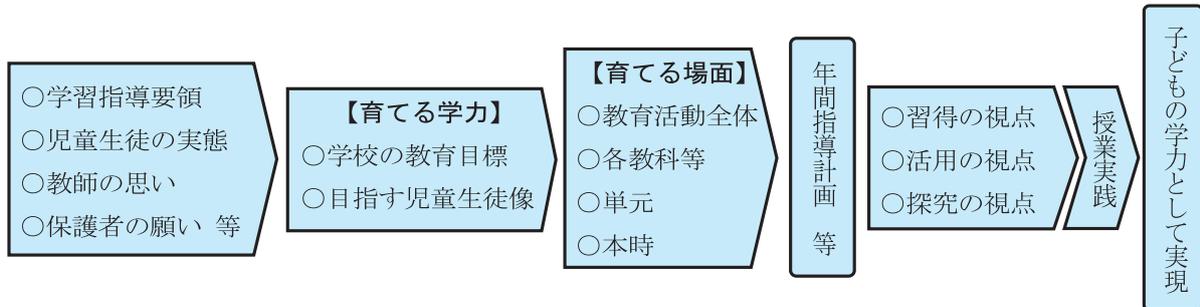
- 1 授業を見直そう p22
 - (1) 授業改善の流れをとらえよう
 - (2) 協働で授業改善をしよう
 - (3) 意見や感想も考察に役立てよう
- 2 形成的評価で指導と評価の一体化を図ろう p24
- 3 全体を振り返ろう p24
- ※ 授業力チェック表

I 授業企画力 ☆確かな学力を育てる授業を企画しよう

1 育てる学力を明確にして授業構想を練ろう

育てる学力が，年間を通して意図的・計画的に児童生徒に育まれるよう，年間指導計画等を作成し，日常の授業で具現化されるように授業構想を練る。

【授業構想のイメージ図】



(1) 学力を保障する年間指導計画をつくろう

各教科等の課題を明確にして，取り組む内容を年間指導計画に位置付けることが重要である。

【重点課題を位置付けた年間指導計画の例】

年間指導計画等は，PDCAのP（プラン）の段階です。項目の中に，学校が目指す内容をきちんと位置付け，見通しをもった取組とすることが大切です。

第〇学年 〇〇科 年間指導計画

教科目標 (1) 学習指導要領の目標，学校の教育目標を考察して書きましょう。

(2) 実態調査等から，各教科等の課題を把握し，具体的な方策などを示しましょう。

重点課題 ○ 自分のやり方や考えを分かりやすく書いたり説明したりする活動の充実。(言語活動の充実)
○ 基礎的・基本的な知識・技能の定着。(繰り返し学習などの工夫)

月	単元名	時数	学習目標	学習内容	評価	重点課題	
						言語活動	基礎的・基本的な知識・技能
4	1	8	◎ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○～と関連付けながら説明する。	○～が分かる。 ○～ができる。
	2	12	◎ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○～を言葉や図などを使いレポートにまとめる。	○～を正しく使用できる。 ○～をグラフ等にかける。
	5	9	◎ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○～の根拠をあげながら話し合う。	○～を理解できる。 ○
		6	◎ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○	○
		10	◎ ○	○ ○	○ ○	○	○

児童生徒や地域の実態から，何月に，どの単元を，どのくらいの時数で指導することが適切かを考えて決定します。年間総時数との関連も考慮しましょう。

学習指導要領の「学年の目標と内容」や教科書等を基に，単元や各時間の学習目標を書きましょう。

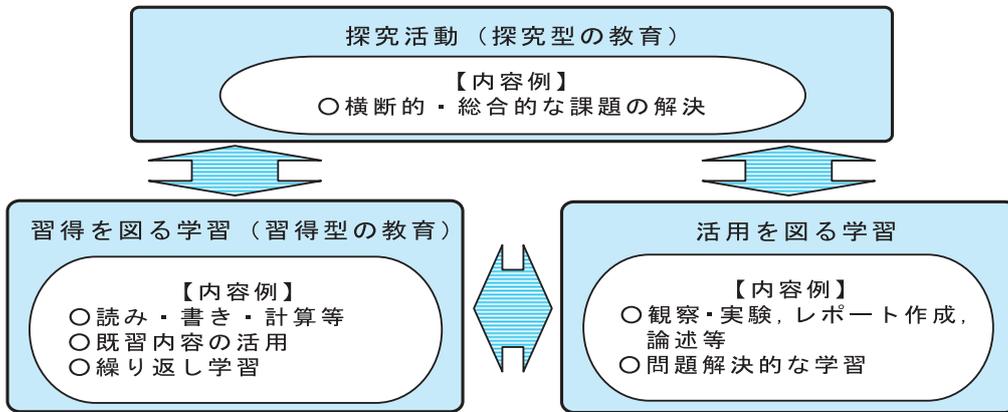
学習目標の達成度を評価する規程を書きましょう。

教科書等を基に，目標達成のために，主となる学習内容や活動を示しましょう。

重点課題に応じて，手立てや内容を具体的に示し，年間を通した意図的な取組になるようにしましょう。

(2) 習得・活用・探究の視点を重視しよう

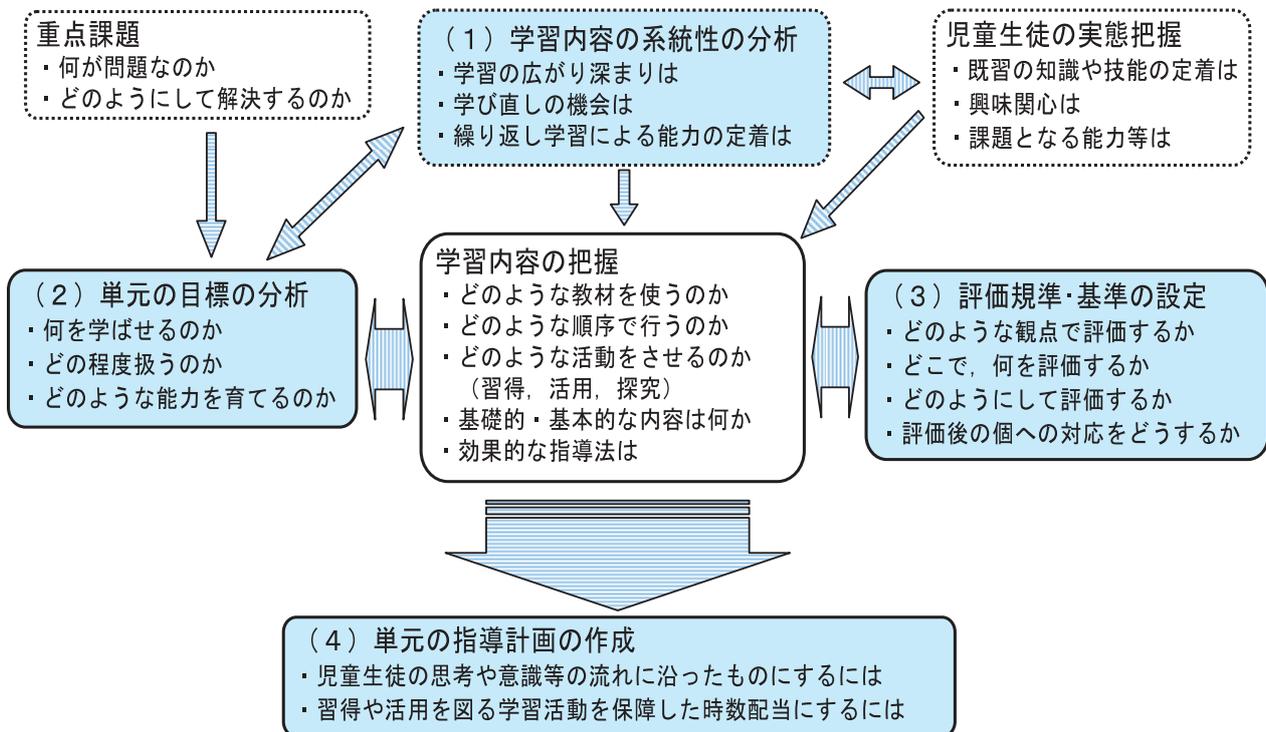
年間指導計画等の作成にあたり、習得、活用、探究の視点を重視し、自校の重点課題として取り組む内容を明示するなどして、授業実践に反映できるようにすることが大切である。



2 単元の指導計画を考えよう

年間指導計画をより具体化して単元の指導計画を作成する。この時、下の図にあるようにそれぞれの関連を見通して作成することが大切である。

【単元の指導計画づくりの流れ】



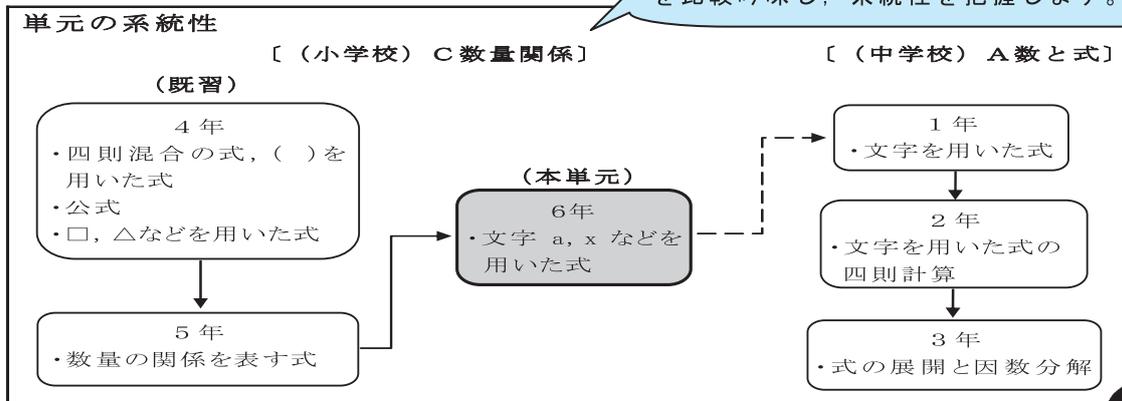
確かな学力を育成するためには、基礎的・基本的な知識・技能の習得と、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育むことの双方が重要です。これらのバランスを重視した単元の指導計画を工夫しましょう。

(1) 学習内容の系統性を分析しよう

学習指導要領等を基にして、学習内容の学年内での広がり、他学年との関係での深まりや重なりなどを把握する。

【単元の系統性の書き方 例（小6 算数）】

学習指導要領解説の各学年の目標と内容を比較吟味し、系統性を把握します。



他学年の教科書を参考に、単元名や小単元名、習得させる基礎的・基本的な知識・技能等の関連を具体的に把握すると、本単元の指導内容が一層明らかになります。



(2) 単元の目標を分析しよう

単元の目標や単元の観点別目標、重点課題への取組を「何を学ばせるのか」「どのような能力を育てるのか」という観点で分析し、具体的に表現する。

【単元の目標分析の方法 例（小4 社会）】

5月 単元名「ごみのしまつと利用」 全10時間

学習目標 学習指導要領や年間指導計画を基に、単元の学習目標を設定します。

◎ 身近な地域で行われているごみの処理と利用に関心をもち、意欲をもって見学や調査をして、これらの事業が人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることに気付くとともに、住みよいくらしに向けて進んで協力できるようにする。

年間指導計画や教科書等の内容を評価の観点別に吟味し、目標をとらえ直します。

観点別目標

評価の観点	社会事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	観察・資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
単元の観点別目標	○生活の中のごみ処理の様子に関心をもち、対策や事業について、意欲的に調べようとする。 ○身近な環境に目を向け、環境を守るために進んで協力しようとする。	○ごみ処理が組織的・計画的に進められることによって、地域の人々の健康な生活の維持と向上が図られていることを考えることができる。 ○ごみの処理や再利用のためのしくみや努力が分かり、自分ができることを考える	○ごみ処理の様子を見学したり働く人々から聞き取り調査をしたりすることができる。 ○調べた過程や結果を絵、グラフ、文章などで分かりやすく表現することができる	○地域の人々の健康な生活を守るために、ごみの始末と再利用が組織的・計画的に行われていることが分かる ○ ○

「重点課題への取組」等の項目を設定することにより、課題解決への取組が具体的になるようにします。

重点課題への取組

(1) 「基礎的・基本的な知識・技能の定着」のための手立て

- 取材メモや資料から必要な情報を選び、関連付けながらまとめさせる。
- 算数の学習との関連を図り、調べた内容を表やグラフで表現させる。
-

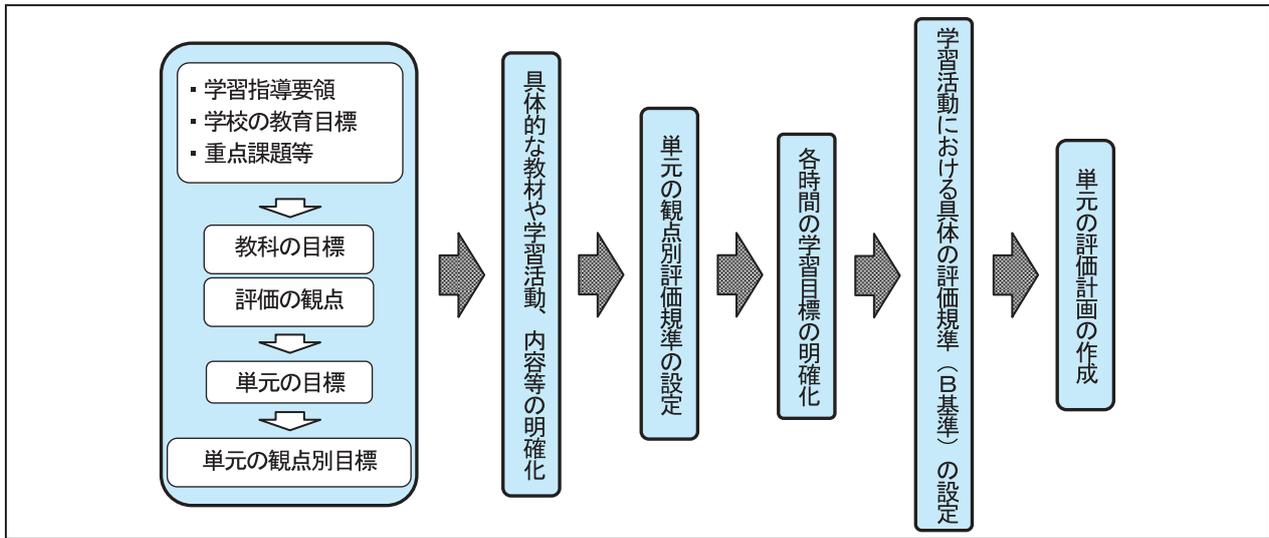
評価の観点は、文部科学省や国立教育政策研究所などの資料を参考にしましょう。



(3) 評価規準・基準を設定しよう

目標がどの程度まで達成されたかを評価するために、単元の観点別評価規準及び学習活動における具体的評価規準（B基準）を示さなくてはならない。

【具体的評価規準（B基準）の作成手順】



【具体的評価規準（B基準）作成の例】

【B量と測定 5年算数「平行四辺形と三角形の面積」 10時間】

単元の目標から順に見ながら、想定される学習内容・活動と関連付けて文章化しましょう。



観点別目標を基に、学習内容や教材、つきたい力等を関連付け、評価規準を設定します。

単位時間の学習活動を想定し、観点別評価規準を基に具体的な評価内容を考え、「おおむね満足」のB基準を設定します。

単元の目標	◎平行四辺形，三角形の面積の求め方を理解し，それらの面積を求めることができる。また，その他の図形の面積についても，既習の図形の面積の求め方を基に考えて，求めることができる。			
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
観点別目標	三角形，平行四辺形の面積にかかわる性質や関係などに……気付き進んで活用しようとする。	三角形，平行四辺形の面積の求め方を考える算数的活動を通して……発展的，統合的に考えたりする。	三角形，平行四辺形の面積を求めたり，それらを活用したりすることができる。	面積の大きさについての感覚を豊かにするとともに，三角形，平行四辺形の面積の求め方を理解している。
観点別評価規準	○既習の正方形，長方形の面積の求め方に帰着させて考えることで，三角形，平行四辺形の面積を求めることができることよさに気付く。	○既習の求積可能な図形の面積の求め方を基にして，三角形，平行四辺形の面積の求め方や公式を考える。 ○三角形，平行四辺形以外の色々な図形についても，	○三角形，平行四辺形の面積を，公式を用いて求めることができる。 ○三角形，平行四辺形の面積の公式を，必要に応じて用いることができる。	○必要な部分の長さを測ることによって，三角形，平行四辺形の面積が計算で求められることを理解している。 ○三角形，平行四辺形について……
学習活動における具体的評価規準（B基準）	<p>第①時</p> 平行四辺形の面積を既習の図形の求積と関連付けて求めようとする。	<p>第①時</p> 長方形の面積の求め方に帰着して考える。 <p>第②時</p> 等積変形した長方形の縦と横の長さに着目して公式を考える。 <p>第④時</p> 2つの数量の関係を，□や△を…… <p>第⑤時</p> 倍積変形して平行四辺形に……	<p>第③時</p> 高さが平行四辺形外にあっても，面積の公式を用いて面積を求めることができる。 <p>第⑦時</p> 高さが三角形の外にあっても，面積の公式を用いて面積を求めることができる。 <p>第⑧～⑩時</p> 色々な図形の面積を求めるときに，既習の面積……	<p>第②時</p> 平行四辺形の面積の求め方を理解している。 <p>第③時</p> 高さが平行四辺形の外にあっても，面積の公式…… <p>第⑥時</p> 三角形の面積の求め方を理解している。 <p>第⑧～⑩時</p> 基本的な学習内容について……